学習院女子大学

〒162-8650
東京都新宿区戸山3-20-1
入試係
TEL 03-3203-1906
https://www.gwc.gakushuin.ac.jp/

学習院女子大学は、1998（平成10）年に開学したリベラルアーツ型大学ですが、その歴史は1877（明治10）年に開設された学習院や、1885（明治18）年創設の華族女学校にまで遡り、近代以降に培ってきたわが国の女子教育の伝統を誇ります。

開学当初から時代を先取りした「国際文化交流学部」を設置し、一貫して国際化を見据えた教育を行ってきました。日本の伝統文化を含む多様な文化や異文化理解など、幅広い分野の多彩な開講科目をはじめ、体験型の海外研修などにより、新たな社会を生き抜くグローバル人材の育成に注力しています。

さらに、一人ひとりの学生を大切にしたきめ細やかな指導には定評があり、学生生活を満喫できる絶好の環境が整っています。

大桃敏行学長

多様な文化への深い理解を養い、地球的視野で新たな社会を創造する新しい時代の“グローバル人材”を育成

地球的視野で物事を考察する“グローバル人材”を育成

学習院女子大学は、新宿にもほど近い利便性のよい場所にありながら、緑豊かなキャンパスを誇っています。

華族の学校として学習院が設立されたのは1877（明治10）年のことです。8年後の1885（明治18）年開校の華族女学校から幾度かの変遷を経たのち、前身の学習院女子短期大学が改組され、1998（平成10）年に学習院女子大学が誕生しました。その歴史は、今もキャンパスに残されている鋳鉄製の正門などからも感じ取ることができます。

2021（令和3）年4月には、教育学を専門とする大桃敏行教授が学長に就任しました。

「グローバル化の進展により、人やモノ、情報などが国境を越えて地球規模に広まるようになった今、地球的視野で物事を考察することが必要です。また、技術革新や人口動態の変化、自然環境の変化などで先が見えにくい時代を生き抜いていく力も求められています」と、大桃学長は日本の教育を取り巻く環境の変化について語ります。

正門（鉄門）

学習院女子大学では、開校当初から「国際文化交流学部」を設置し、その中にアプローチの異なる3つの学科[3]である日本文化学科、国際コミュニケーション学科、英語コミュニケーション学科を設けました。それぞれの学科で専門性を高めていきますが、3学科を貫く共通の目的は「関連諸学問に対する高い識見を有するとともに、豊かな教養と地球的視野を持ち、文化の交流と相互理解を通じて国際社会に貢献できる人材の育成」です。

この実現のために展開される、学習院女子大学の教育の3つの大きな特徴をご紹介しましょう。

実践的・体験的プログラムで国際化を強力に推進

第一の特徴は「国際化の推進」です。留学と海外研修、授業の3つの柱を中心に強力に推進しています。

留学については、1学年355人の学生規模としては極めて多い20を超える海外協定校を有しています。単位互換ができるほか、カナダのレスブリッジ大学とのダブルディグリー留学もあり、短期・長期さまざまな形で留学することができます。

海外研修プログラムには、アメリカの首都ワシントンで各種の国際機関や文化機関、行政機関、歴史施設などを訪問し、第一線で活躍している人々から直接指導を受ける「ワシントン・セミナー」や、カナダ・オーストラリア・韓国での語学研修、中欧、ベトナム、ラオス、ルワンダなどでの国際協力研修があります。これらの海外研修プログラムは、すべて実践的で体験的であり、先進国のみならず発展途上国も訪れる機会があること、そして長期休暇に実施されるため、学業と両立しやすいという利点があります。

さらに、日頃の授業でもさまざまな工夫をこらしながら、国際化のためのオンライン授業などを展開しています。

一つは、同大とカナダのレスブリッジ大学をICT技術を活用して中継する「海外同時授業[2]」です。英語圏の大学の授業が日本の大学で同時に行われ、リアルタイムで学生同士が活発にディスカッションをする革新的な授業です。

もう一つはOECDとオンラインでつなぎ、担当者から直接講義を受ける授業です。国際機関の専門家と同大の教員によるユニークな分野横断型の授業と言えるでしょう。

「コロナ禍においてもオンラインを利用しながら留学・海外研修を進め、地球規模で課題を考える力を育みたいと思います」と大桃学長は説明します。

多様な文化と分野の学びが異文化理解へと繋がる

学習院女子大学の教育の第二の特徴は、「多様性に開かれた学び」です。小規模リベラルアーツ型大学として、人文社会科学、情報など幅広い分野を学び、深い教養に根ざした文化への造詣を培います。

主に1・2年次に履修する多様な分野の全学科共通科目には、外国語や国際文化交流論、情報技術、ボランティアなどを学ぶ社会演習などさまざまな科目群があります。その中でも、茶道や華道、書道、香道、有職故実などが用意されている伝統文化演習科目群[3]は、日本文化に深い理解のある学習院ならではのカリキュラムだと言えるでしょう。

さらに意欲のある学生は、大学の枠を超えた「f-Campus[4]」を利用することで、より幅の広い学びが可能となっています。

丁寧な指導ときめ細やかなキャリア就職支援

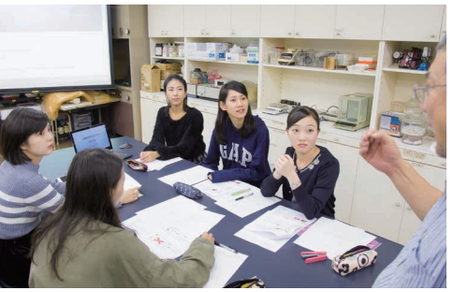
第三の教育の特徴は、「小規模校ならではのきめ細やかで丁寧な指導」です。1～2年生の基礎演習、3～4年生の専門演習においても、各学年10名程度というお互いが分かる集団の中で、探求的で協働的な学びを深めていきます。学生と教職員との距離も近く、学生生活を満喫できる絶好の環境が整っています。

この一人ひとりを大切にした丁寧な指導は、教職や図書館司書といった資格の授業やキャリア就職サポートなどについても同様です。

近年、大学の「就職力」がより重視されるようになっていますが、学習院女子大学では学生一人ひとりに合わせたキャリア育成を徹底してサポートし、高水準の就職力を誇っています。1年次から3年次の各学年に応じたプログラムに加え、学生の状況に応じて随時セミナーを企画・実施。個別面談や有志の進路決定者によるキャリアアドバイザリー制度などサポート体制も充実しています。

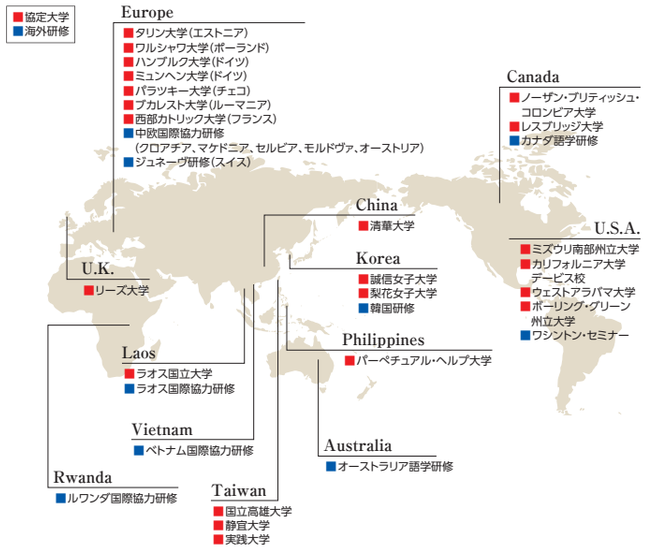
こうしたサポートを受けた2021年3月卒業生の就職率は98・9%に達し、著名400社への実就職率で全国女子大学1位（大学通信調べ）など、高い成果を修めています。

「本学ではグローバルな視点を重視し、多様性に開かれた学びを通して、小規模校ならではの丁寧な指導により、予測が難しい時代を生き抜いていく力、他者と協力して新しい社会を構成していく力を育んでいきます。このグローバルで多様性に開かれた学びの空間に、多くの方が関心をもってくださることを期待しています」と大桃学長は受験生にメッセージを送っています。



少人数制の授業が多く、教員との距離が近い

学習院女子大学から世界へ ～グローバルネットワーク



（1）国際文化交流学部の3つの学科

日本文化学科では、民俗・歴史、日本語・日本文学、芸術文化・アートマネジメント、現代文化の4つのフィールドから総合的に日本文化を理解し、その伝統と特質について世界に発信する能力を培う。

国際コミュニケーション学科では、国際関係、コミュニケーション、比較文化・地域研究という3つの柱を軸とし、国際社会のあるべき姿や、異文化理解、いかに相互関係を構築するかなどについて学ぶ。

英語コミュニケーション学科では、2年次に全員がカナダのレスブリッジ大学で6カ月間の留学を行うなど、少人数制で高度な英語コミュニケーション力を養うほか、国際社会、国際関係などについて学ぶ。

（2）海外同時授業

2012年9月にスタートしたプログラムで、日本にいながらにして海外で同時に行われている授業を受講できる。環太平洋地域の社会経済や国際関係を学際的に探求することが目的。リアルタイムで質問したり、学生同士で討論を行ったりと、学生たちは英語で活発に参加している。

（3）伝統文化演習科目群

日本の伝統文化について、実技と知識の両面から理解を深めるために用意された共通科目で、全学科の学生が履修可能。著名な講師陣から講義・実技指導を受け、文化的背景から歴史に至るまでの知識も身につけることができる。

（4）f-Campus（5大学間単位互換制度）

学習院女子大学、学習院大学、早稲田大学、立教大学、日本女子大学の5大学が2001年度からスタートさせた、学部レベルでの本格的な単位互換制度。各大学が提供する科目は併せて2000科目以上を数える。（21年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止）

●WEBオープンキャンパス特設ページ公開中

いつでも視聴可能な大学紹介動画や、ビデオ通話によるオンライン相談を実施。
https://gwc-gakushuin.jp/